

新品種「なつひかり」（イタリアンライグラス型フェストロリウム）
を活用した夏期の高温に強い草地への検討

【研究のポイント】

本県の共同利用牧場等の主体草種であるオーチャードグラスは、異常気象による夏枯れで裸地が多くなっている。裸地には自生ライグラスが侵入し、その自生ライグラスも秋以降は枯れてしまうため、秋の牧草収量が減少している。

本研究では高温耐性がある新品種「なつひかり」（農研機構育成）の地域適応性評価を実施した。

また「なつひかり」を用いた簡易更新機（全面耕起せず部分的に作溝し播種する。）による草地メンテナンス技術の開発を目指し、実証栽培試験を実施した。



1 「なつひかり」の収量調査

・比較品種に比べ、多収であった。

草地メンテナンス技術マニュアル作成
【R10年度】種子の販売予定！！

表1.収量調査結果（令和6年度）

品種名	乾物収量 (kg/10a)			合計収量 (kg/10a)	
	1番草 R6.5.10	2番草 R6.7.3	3番草 R6.10.4	生草収量	乾物収量 (比較比)
イタリアンライグラス品種A	175	115	61	2,018	351 (100)
フェストロリウム品種B	319	219	82	3,821	620 (177)
なつひかり	800	388	66	7,311	1,254 (357)

2 「なつひかり」の越夏性調査

・自生ライグラスに比べ、次年度でも株が残り、越夏性に優れることが分かった。

表2 越夏性調査結果（株数/m²）

草種	令和6年度			令和7年度		
	越夏前	越夏後	%	越夏前	越夏後	%
自生ライグラス	39	14	36	12	4	33
なつひかり	14	10	71	9	6	66

3 簡易更新機による「なつひかり」の追播

・簡易更新を実証圃（2ha）で行ったところ、牧草割合が20%増加した。

表3 実証栽培試験圃刈調査（g DM/m²）

番草	区	牧草合計	雑草合計
①	簡易更新区	308	11
	対照区	195	90
②	簡易更新区	197	4
	対照区	168	114
③	簡易更新区	24	172
	対照区	39	190
合計	簡易更新区	529	187
	対照区	402	394

写真1 実証圃（R7.6.18撮影）



※本研究はイノベーション創出強化研究推進事業（JPJ007097）の支援を受けて行った。

【生産者の声】

近年温暖化により牧草の立ち枯れや株の枯死が発生し、収量が激減している。高温耐性のある品種は今後必要であり、「なつひかり」の販売がとても楽しみ。
竹田市 東部牧野 浅倉 博文 草地利用部長

【連絡先】

担当：農林水産研究指導センター畜産研究部 飼料・環境チーム
TEL：0974-76-1214（問合せは企画指導担当へ）
住所：竹田市久住町大字久住3989-1